

札幌イムス  
リハビリ内科

# 生活困りごと相談プロジェクト

## OTが専門性生かし、悩み対応

手稲区のイムス札幌内科リハビリテーション病院(橋島彰文院長・150床)は、作業療法士が介護施設などと連携し、利用者や地域住民を対象に「生活困りごと相談プロジェクト」を実施。助言を通して解決することで、健康関連のQOL向上につなげており、作業療法士介入の必要がない場合は各施設スタッフで対応できるように、多職種研修会なども行っている。

処理技能は0.7logitから0.8logitに向上した。  
また健康関連QOLは100点満点中、日常役割機能が50点から62.5点、活力が50点から75点など、12項目のうち5項目



介護用箸を使用することで悩みが解決

同病院では2019年から、近隣の有料老人ホームや地域包括支援センターと連携。プロジェクトは作業療法士が施設に赴く形で、利用者と1対1で行われ、週に1回30分程度を最大全6回で対応している。

初回は悩みを聞き、ADL評価法の作業遂行能力(AMPS)を用いて、環境や道具を変更する「代償モデル」、生活行為の練習をする「習得モデル」、身体機能を回復する「回復モデル」の中から解決法を導き出し、介入方針を決定。残りの期間で具体的に悩みを解決していく取り組みだ。

指先の感覚障害がある90歳女性のケースでは、介護用箸やボタンかけ補助具を使用した練習

目で評価が上がった。  
「未だに介護施設のス  
多職種向けの研修会を積極  
「未だに介護施設のス  
多職種向けの研修会を積極  
実施して収益化を図り、職  
域的に実施。柴田圭介作  
域拡大を進めていきたく  
専門性が認識されていな  
業療法士は「保険外の予  
い」としている。

「未だに介護施設のス  
多職種向けの研修会を積極  
実施して収益化を図り、職  
域的に実施。柴田圭介作  
域拡大を進めていきたく  
専門性が認識されていな  
業療法士は「保険外の予  
い」としている。